

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	佐渡市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	佐渡市文化遺産を活用した地域活性化プラン	【計画の改善時期】 平成30年度	
4 実施計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>佐渡市文化振興ビジョン（2010年策定）及び佐渡市歴史文化基本構想（平成23年策定）を踏まえ、下記取り組みを通じて、地域全体で官民一体となって、貴重な文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制づくりを目指す。</p> <p>1. 情報発信事業</p> <p>(1) ホームページ『佐渡の伝統芸能』の作成 佐渡に伝わる「佐渡民謡」「人形芝居」「能楽」などの伝統芸能を紹介するホームページを作成する。各芸能の紹介動画や実演動画などを掲載し、佐渡市や観光協会等のホームページとリンクさせることで、伝統芸能という文化遺産を広く網羅的に紹介するコンテンツとする。 【事業年度：平成29年度～平成30年度】 平成29年度 ホームページ作成資料収集、調査 ホームページ素材撮影 ホームページデザイン作成（平成30年3月15日事業完了） 平成30年度 ホームページ構築、事業完了（平成31年3月11日事業完了）</p> <p>(2) 伝統芸能パンフレット ホームページに合わせて伝統芸能紹介用パンフレットを作成し、文化の歴史や踊り方などを掲載することで、市民や観光客が芸能を知り、芸能に触れ、「芸能の島佐渡」を満喫するために必要となる情報パンフレットを作成する。なお、(1)で作成したホームページとQRコード等を用いて連動させ、スマートフォン等で動画と接続できるパンフレットとする。 【事業年度：平成30年度】 平成30年度 パンフレット作成、印刷、事業完了（平成31年3月11日事業完了）</p> <p>2. 普及啓発事業</p> <p>(1) 『佐渡民謡の祝祭』の開催 当時の御前踊りを再現するために史跡佐渡奉行所跡を活用し、各地域で保存活動を実施しているそれぞれの民謡団体が一堂に会するイベントとして実施する。佐渡に現存する多種多様な民謡を島民や佐渡を訪れる人々に向けて披露することにより、郷土に対する誇りと郷土愛の醸成につなげるとともに、この機会を通じて貴重な文化の保存と継承に向けた団体間の連携・協働体制を構築すること、また、民謡に対する参加者の意識改革を目的とする。 【事業年度：平成28年度～平成33年度】 平成28年度 第1回佐渡民謡の祝祭（平成28年10月2日実施済） 平成29年度 第2回佐渡民謡の祝祭（平成29年10月8日実施済） 平成30年度 第3回佐渡民謡の祝祭 平成31年度 第4回佐渡民謡の祝祭⇒第34回国民文化祭とコラボ 平成32年度 第5回佐渡民謡の祝祭 平成33年度 第6回佐渡民謡の祝祭</p> <p>この普及啓発事業は、平成31年度国民文化祭（新潟開催）における佐渡市のメインイベントとなるよう継続して実施していくこととする。</p> <p>3. 記録作成事業</p> <p>(1) 佐渡おけさをはじめとした各地域に現存する佐渡民謡の動画記録及び小冊子の作成 各団体の課題でもある立方（<i>カク</i>：歌、踊り）囃子方（<i>ハシカ</i>：太鼓、三味線、笛）の後継者不足の現状の中で、映像の保存は近々の課題である。記録を作成し、次世代への普及啓発に活用することにより、後継者育成や伝統の継承につなげる。 【事業年度：平成28年度】 平成28年度 記録撮影、成果品作成（平成29年3月10日事業完了）</p>			

6 実施体制			
<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市が、本実施計画に係る全体の企画・調整や各補助事業に係る指導を行う。 主な担当課、役割は以下のとおり。 取りまとめ・総合窓口……社会教育課 島外への発信企画……観光振興課 史跡・文化財活用……世界遺産推進課 ・補助事業は次の団体が実施する。 佐渡民謡活性化実行委員会 構成団体（佐渡市、佐渡市教育委員会、佐渡観光交流機構、佐渡を世界遺産にする会、有識者等） 			
7 実施計画における目標と期待される効果			別紙①のとおり
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 21,156 千円	平成31年度申請額： 2,460 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>1. 情報発信事業 ホームページやパンフレットを活用した佐渡芸能のアピールにより、高齢化が進み継続が危ぶまれている団体に活力を与え、活動継続に向けた意識や意欲が向上することが期待できる。また、動画の掲載等により、気軽に「見る・聞く・踊る」ことが可能となり、次世代継承への大きな橋掛かりとなる。また、「芸能の島佐渡」を全国的に知らしめることが可能となり、低迷している観光需要にも活力を与えることができる。</p> <p>2. 普及啓発事業 気軽に参加できるイベントとすることで、次世代を担う若者を含めた多くの人が佐渡の伝統芸能を身近に感じることができ、文化に対する意識改革、郷土愛の醸成に繋がる。また、多くの観光客も集まることから、観光業界や地元地域への波及効果も期待できる。</p> <p>3. 記録作成事業 成果品を学校等へ配布することで民謡の継承活動を展開する際の学習教材として活用されることにより、次世代を担う子どもたちの民謡に親しむ時間が増加し、民謡の魅力や楽しさが伝わり、強いては伝統文化の継承に繋がっていくことが期待できる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市歴史文化基本構想（平成23年策定済み） 以下、関連した文言を抜粋 佐渡市は、数多くの個性豊かな伝統文化を蓄積する島である。多様な伝統文化を担う小規模な集落が基本的な単位となって島内全体に広がり、佐渡の伝統文化の厚みをなしていることが特徴である。 そして、高齢化等により伝統文化の継承が困難な集落もみられるものの、地域がもつ固有の歴史文化資源を継承しようとする意欲は総じて高い。 現在、佐渡市においては、島内各地の類以する活動組織相互の交流や報告会の開催なども行われるようになってきている。互いに交流することにより、伝統文化の一部を担っていると改めて実感できたり、各地の流派の違いを知ることで自分たちの独自性を再認識する機会となり得たりもする。 ・歴史的風致維持向上計画については、佐渡市世界遺産推進課文化財室において作成に向けた取り組み中であり、H30年6月に協議会設置条例を制定し、H30年7月に協議会を開催、平成31年度末までの認定を目指している。 			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	佐渡市教育委員会 社会教育課 佐渡学センター		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	史跡佐渡奉行所跡への来客数	関連事業:		事業③、④		
目標値 1 :	【現状値】 平成 27 年度 19,878 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20,871 人					
設定根拠 1 :	人口の減少、観光の低迷、平成26年度 (20,445人) から平成27年度 (19,878人) の来客数減を考慮しながらも、イベント効果によるリピーター増を加味して5年で5%増を設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
20,377 人	17,940 人	人	人	人	人	
50%	-195%					
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産を活用した取組数 (本事業の取組を除く) (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	史跡佐渡奉行所跡を活用した企画 (イベント) 数	関連事業:		事業③、④		
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 4 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 12 回					
設定根拠 2 :	本事業による史跡を活用した取り組みへの推進効果を考慮し、平成28年度の3倍を設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
7 回	7 回	回	回	回	回	
38%	38%					
目標区分 3 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 3 :	文化遺産が所在する最寄駅の乗降者者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	佐渡汽船 (両津港・小木港・赤泊港) 利用客数	関連事業:		事業①、②		
目標値 3 :	【現状値】 平成 28 年度 500,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 487,500 人					
設定根拠 3 :	観光の低迷により、毎年平均約1%減少している状況であるが、文化資源の魅力発信による効果を加味して5年で2.5%減を設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
496,000 人	499,000 人	人	人	人	人	
32%	8%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	地域文化遺産活性化事業	実施団体：	佐渡民謡活性化実行委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	ホームページ『佐渡の伝統芸能』の作成。佐渡の伝統芸能を網羅的に紹介する内容とし、動画やイベント情報などを掲載したコンテンツとする。					
評価指標区分：	・コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ホームページ『佐渡の伝統芸能』の閲覧者数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 1,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10,000 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 人	2,907 人	人	人	人	人	
	21%					
事業②：	地域文化遺産活性化事業	実施団体：	佐渡民謡活性化実行委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	伝統芸能紹介パンフレットの作成。佐渡の伝統芸能を網羅的に紹介するパンフレットを1,200部（4種×300部）作成する。					
評価指標区分：	・補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	パンフレットの増刷配布数					
目標値：	【現状値】 平成 31 年度 4,000 部 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10,000 部					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 部	0 部	部	部	部	部	
事業③：	地域文化遺産活性化事業	実施団体：	佐渡民謡活性化実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 28 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	『佐渡民謡の祝祭』イベントの開催。各地域の保存活動団体が一堂に会し、佐渡民謡の普及啓発のための披露、次世代継承のための体験会などを行う。					
評価指標区分：	・フェスティバル出演団体の保存会会員数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	民謡団体団員数					
目標値：	【現状値】 平成 27 年度 372 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 409 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
453 人	472 人	人	人	人	人	
219%	270%					

事業④：	地域文化遺産活性化事業	実施団体：	佐渡民謡活性化実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	『佐渡民謡の祝祭』イベントの開催。各地域の保存活動団体が一堂に会し、佐渡民謡の普及啓発のための披露、次世代継承のための体験会などを行う。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	佐渡民謡の種類					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 21 種類 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 21 種類					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
21 種類	21 種類	種類	種類	種類	種類	
#DIV/0!	#DIV/0!					
事業⑤：	地域文化遺産活性化事業	実施団体：	佐渡民謡活性化実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度			
事業概要：	佐渡民謡の動画記録及び小冊子の作成。佐渡民謡の保存用記録と普及用映像、譜面等を載せた小冊子を作成する。成果品は各学校等へ配布し次世代継承に繋げていく。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	島内学校における成果品の活用学校数					
目標値：	平成 28 年度 0 校 ⇒ 平成 33 年度 44 校					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
12 校	14 校	校	校	校	校	
27%	32%					